



魅力ある教育紹介 統合実践実習を実施しての学び

新潟大学医学部保健学科の魅力ある教育として、「統合実践実習」について紹介します。統合実践実習は、新カリキュラムとなり4年次生が、主に1年次生の「基礎看護学実習Ⅰ」におけるメンター（助言者）の役割を担うことを通し、看護学における教育指導および管理体制について学ぶことを大きなねらいとしてスタートした実習です。4年次生はメンターの役割を果たすべく1年次生のために実習開始前から様々な準備、教育指導案の検討に取り組み実習に臨みました。4年次生の経験に基づくきめ細やかな指導に1年次生の笑顔が印象的な実習となりました。

1年生のメンター（助言者）を果たしたことで得た学び

今回の実習で、1年生のメンターを経験したことは、これまでの4年間の学びを振り返る良い機会となりました。また、実習を通して、知識や経験に差があるため、1年生の理解度に合わせた声かけを意識しました。実際の現場でも、経験年数や背景の異なる看護師がいるため、互いに教え合う関係性を築くことで、チームとして看護の質を高められると思います。今回の経験は、そのための準備につながったと感じています。来年からは新たに“1年生”として働き始めますが、この学びを活かし、周囲とのコミュニケーションを大切にしながら、患者さんに寄り添える看護職を目指していきたいです。

（2025年度の統合実践実習5G代表 4年生）



1年生に衛生学的手洗いを指導する
4年生のメンター（実習初日）



最終カンファレンスを控える1年生と
4年生メンター（実習最終日）

保健師コースの紹介

保健師コースでは、地域に暮らす人々の健康を支えるための、幅広い知識と実践力を学ぶことができます。講義や演習を通して、疾病予防や健康増進、母子保健、高齢者支援など、さまざまな保健活動に触れることができます。4年次には、3～4人のグループに分かれて新潟市内の保健センターで3週間の保健師実習を行います。健診や地域会議、健康教室、家庭訪問などに参加し、住民の方を対象とした健康教育の企画・実施にも挑戦します。実習では、地域の温かさを感じながら、健康支援の大切さとやりがいを実感できます。仲間と協力して健康教育をつくり上げる達成感や、地域の方々との会話の楽しさなど、座学だけでは味わえない学びがたくさんあります。笑顔あふれる学びの中で、地域に寄り添う保健師と一緒に目指してみませんか？



2025年度の実習で使用した
健康教育媒体

（2025年度の公衆衛生看護学実習履修者）

助産師コースの紹介

助産師コースは、母子と女性の健康を支える助産師の国家資格取得を目指すコースです。最も大きな学びの場となるのが「助産学実習」です。実習前は、安全なケアを提供できるよう、学内で先生方と講義やモデルを使った実技演習を行います。実習が始まると、県内各地の病院や診療所で、昼夜を問わず指導を受けながら約10例の分娩介助を経験します。常に母子の安全を第一に考える責任の重さ、そして命が誕生する奇跡的な瞬間に立ち会えることは、大変さを超える大きな感動とやりがいとなりました。命と真摯に向き合うことの重みと喜びを、実践を通して深く学ぶことができます。

（2025年度の助産学実習履修者）



2025年度の助産学実習履修者9名と
演習で使用する赤ちゃん人形